

大積神楽【おおつみかぐら】



開催場所

北九州市門司区大字大積 1272

天疫神社

開催日

11月3日

指定

市町村指定無形民俗文化財

【芸能の概要】

大積神楽は、天疫神社の秋季大祭に奉納される里神楽である。詳しい由来は明らかではないが、江戸時代末期は、盛んに奉納されていたものと考えられる。明治時代に入って一度途絶えたが、1921（大正10）年頃、築城町の赤幡神楽に伝わる神楽を習い、復活させた。舞は荒々しく勇壮な振りが特徴で、現在は、8演目が、浦安の舞と共に奉納されている。

【芸能の特徴】

大積神楽がいつ頃から行われていたかは不明だが、湯立神楽に使用されていた五徳の脚に、「天保15年9月」の銘があり、江戸時代末期には奉納されていたと推定される。現在奉納されている神楽は、築城町赤幡神社に伝わる神楽を再習得したもので、豊前里神楽の流れをくんでいる。江戸時代には、甲宗八幡宮の神官を中心とした神楽座が舞っていたが明治時代に途絶えた。1921（大正10）年頃、氏子が築城町赤幡神社の神楽を習得して復活させた。昭和30年頃には、綱御先、剣の舞、湯立神楽なども奉納されていた。盆の舞は一度途絶えていたが、平成10年に復活し、現在8番が演じられている。浦安の舞は下関の赤間神宮より習得し、平成6年頃から神楽と共に奉納されている。

【使用する祭具・道具など】

神楽面11面（明治初年頃のものを含む）が保存会に伝わっている。現在は、保存会会員が手彫りしたものを使用している。

・アクセス

西鉄バス大積東口バス停より徒歩5分

・周辺の観光

門司港レトロ口地区、和布刈公園、白野江植物公園、老松公園
門司みなと祭（5月）
門司港レトロフェア（5月）
玉泉寺お花まつり（5月）
海峡花火大会（6月）

・近くの特産品

大葉春菊、フグ、一粒カキ、小倉牛

